

インフルエンザワクチン予約の制限解除について

11月1日から年齢制限を解除します。カルテのある方もない方も、高校生以上、あるいは大人の方も予約いただけます。従来通り、65歳以上の堺市の方の定期接種としてお受けいただけます。2回目が必要な方は4週程度空けて予約し、必ずワクチンを確保してください。



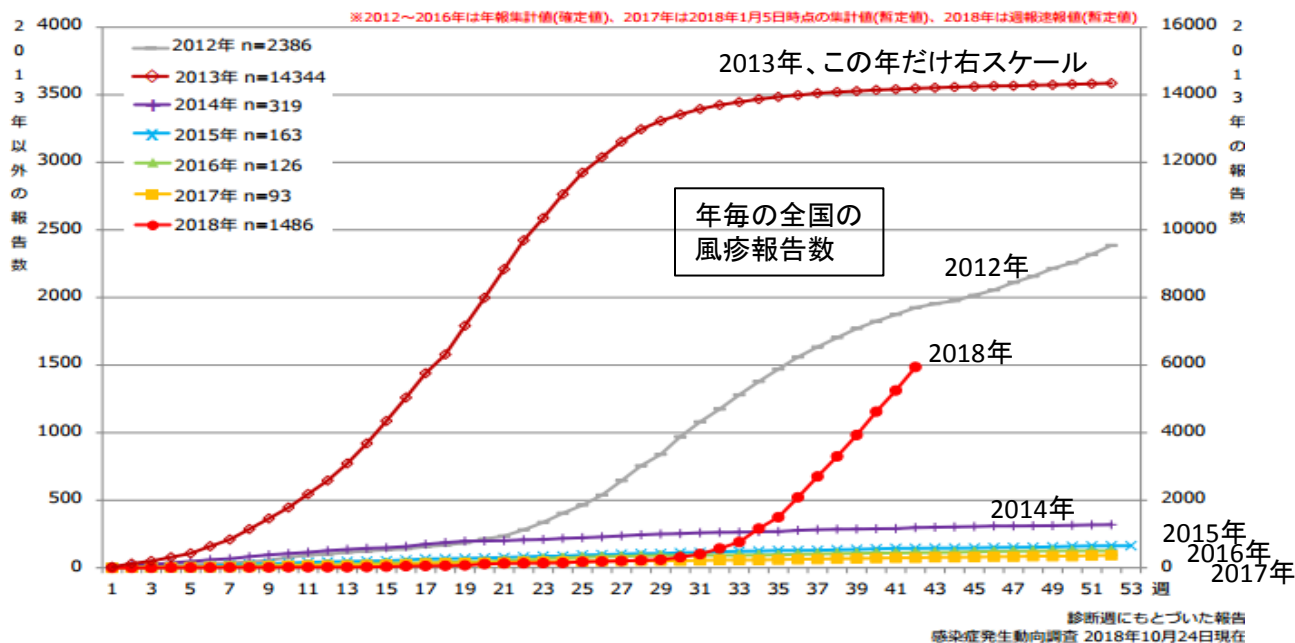
専用予約サイト <http://2977771.com/i/>

予診票サイト <http://www.yoshinhyo.com/download/aka7771>



詳しい予約の方法は当科ホームページの【インフルエンザ予防接種のご案内】をご覧ください。

風疹は流行拡大中



夏から風疹が関東を中心に拡大中と騒がしいですが、2012年の流行のときより増加率が高く、全国展開になってきています。2012～2013年の大流行を超える可能性も出てきました。

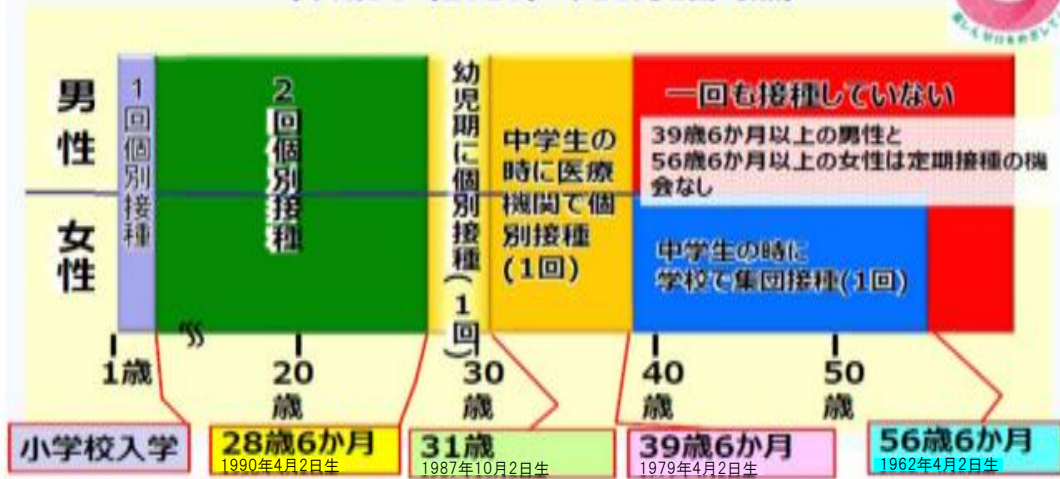
大阪府でも、風疹の報告数が昨年1年間で累計10名であったのが、10月21日までで既に47名と増加してきています。

風疹の罹患の中心はこれまで通り、30～40代の男性 予防接種を未接種、あるいは受けたか不明な人がほとんど

今年の風疹報告患者の96%(1,422人)が成人で、男性が女性の5倍多い(男性1,189人、女性233人)です。男性患者の年齢中央値は41歳(0～85歳)で、特に30～40代の男性に多く(男性全体の62%)、女性の年齢中央値は30歳(0～76歳)で、特に妊娠出産年齢である20～30代に多い(女性全体の59%)という結果でした。職業としては、会社員と記載された627人が最も多く、感染源としては何らかの記載のあった237人(16%)中、同僚や上司などの職場関連が110人と最多で、家族35人、コンサートやライブ等26人、旅行や出張18人、友人や知人14人、通勤途中9人、会議4人等の記載があったとのことです。

予防接種歴がない、あるいは不明とした人が93%を占めました。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
(平成30(2018)年10月1日時点)



一番の問題は、先天性風疹症候群

風疹の流行年と先天性風疹症候群の発生の多い年度は完全に一致しています。

妊娠20週頃まで(特に妊娠初期)の女性が風疹にかかると胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、白内障や緑内障などの眼症状、動脈管開存症や肺動脈狭窄症などの先天性心疾患、胎内発育不全、精神発達遅延などを発症させますが、難聴の頻度が最も多いです。妊娠1か月以内なら約50%以上に、妊娠2か月以内なら20~30%に、妊娠3か月以内なら約5%に認めるという報告やもっと悪いという報告もあります(新・こどもと健康No.20記載と同じ)。

1965年、沖縄県で風疹の大流行が発生し、妊婦の25~30%が風疹ウイルスに感染したと推定され、408人の先天性風疹症候群の出生が確認されました(その年の出生数の2%)。

また、2012~13年に全国的な風疹の大流行があり、約17,000人が風疹になりました(9割が成人で、男女比は約3:1)。その結果、2012年10月~2014年10月の間に計45例の先天性風疹症候群の報告があり、過半数の症例で難聴や先天性心疾患を認めました。2015年の暫定調査報告時点の転帰では24%の11例が死亡、生存の34例(76%)の1年以上の経過では、15例で体重増加不良、12例で精神発達遅滞を認め、5例で遅発性の難聴を認めました。先天性風疹症候群児の母親は年齢不明の1名を除くと、出産時年齢は中央値25歳(15~42歳)で、31例(69%)の母親で妊娠中の風疹様症状(発熱、発疹、頸部リンパ節腫脹)の出現歴があり(不明の2例を除く)、症状出現時の妊娠週数は中央値9週(3~18週)でした。風疹ワクチンの接種歴では2回接種者はおらず、1回の接種歴が11例(24%)、接種歴なしが15例(33%)、不明が19例(42%)でした。

妊婦健診で風疹抗体の低いと指摘される率

妊婦健診で風疹抗体価が低いと指摘される(HI抗体価で1:8未満、または1:8、または1:16)率は、20代前半で20%、20代後半で24%、30代前半で16%、30代後半で12%、40代前半で16%、40代後半で19%あります。28歳6か月未満の2回接種の機会があった世代でも絶対大丈夫ともいえません。

堺市では風疹抗体検査を保健センターで1回無料で受けられます。
風疹抗体が基準値未満の堺市在住の方にはワクチン助成制度があります。

新・こどもと健康No.20やNo.21で掲載しています。

(出典:国立感染症研究所HP『風疹発生動向調査(IDWR)』、大阪府HP『風しんについて』、国立感染症研究所 感染症疫学センターHP『風疹流行に関する緊急情報:2018年10月24日現在』、国立感染症研究所HP『先天性風疹症候群とは』、同『風疹流行および先天性風疹症候群の発生に関するリスクアセスメント(平成25年7月16日)』、同『風疹および先天性風疹症候群の発生に関するリスクアセスメント第三版(2018年1月24日)』、同『2012~2014年に出生した先天性風疹症候群45例のフォローアップ調査結果報告』、植田浩司『日本の風疹・先天性風疹症候群の疫学研究』小児感染免疫Vol.20 No.2 pp247~259, 2008、堺市HP『風しん予防接種費用の助成について』、同『風しん抗体検査のご案内』)

11月・担当医の変更

なし